

令和2年度
学校関係者評価 報告書

令和3年3月23日実施
学校法人 エイシンカレッジ
日本ビジネス公務員専門学校

令和3年3月24日

令和2年度 学校関係者評価報告書

学校法人 エイシンカレッジ
日本ビジネス公務員専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人 エイシンカレッジ 日本ビジネス公務員専門学校 学校関係者評価委員会は令和2年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので以下のとおり報告致します。

1. 基本方針

本学における学校関係者評価は学校自己評価（項目別の自己評価表）を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

また、公表については「日本ビジネス公務員専門学校 学校評価実施規定」に則するものとする。

2. 出席者一覧表

名前	役職	所属（企業・団体名）
＜学校関係者評価委員＞		
細貝 伸行	支店長	(株)エイエイピー 新潟支店
田代 克郎	常務取締役	アートビジネスサプライ 株式会社
＜事務局＞		
森 久	学校長	日本ビジネス公務員専門学校
横山 孝	教務部長 学科長(ビジネス)	日本ビジネス公務員専門学校
柳下	学科長(公務員)	日本ビジネス公務員専門学校
安達 義徳	学科長(医療)	日本ビジネス公務員専門学校
桜井	教務課長	日本ビジネス公務員専門学校
＜進行＞		
小林 幹直	事務局長	日本ビジネス公務員専門学校

3. 委員会次第（概要）

- ・開催日時 令和3年3月23日（火） 14:30 ～ 15:30
- ・実施場所 日本ビジネス公務員専門学校 1F 教室

（1）学校長挨拶

（2）自己評価に関する改善討議

- ①教育理念・目標 ②学校運営 ③教育活動 ④学修成果
- ⑤学生支援 ⑥教育環境 ⑦学生の受入れ募集 ⑧財務
- ⑨法令等の遵守 ⑩社会貢献・地域貢献

（以上の評価項目に関するご意見・ご提言を頂いた）

4. 学校関係者評価委員による評価・指摘事項

① 教育理念・目標

- ・3つのポリシーに対する学校の姿勢が理解できた。学生や保護者と共有して欲しい。
- ・コロナ禍、IT化（AI、DX化）という社会変容が激しい時代である。各学科特有の業界ニーズを再度把握し、本委員会でも共有していきたい。

② 学校運営

- ・ICT推進、ペーパーレス化に関して、それほど課題として感じられなかった。徐々に進歩を感じているのでこれからも計画的に進めて欲しい。
- ・ITツールの活用スキルは教職員個人差が生じないよう運営を心掛けて欲しい。
- ・高等教育の修学支援制度がスタートした年度であった。厳格かつ厳正な公表がなされているので引き続き励行して頂きたい。

③ 教育活動

- ・ICT教育提供を目的した研修内容を理解できた。今後の進展に関して教務部長が各教員へヒアリングを実施し、課題設定していくということなので期待したい。
- ・在校生の期待に応える教育をおこなうことで学生募集の安定につなげて欲しい。

④ 学修成果

- ・退学率の低減が図れている。学生指導の好例は校内共有できるよう工夫して欲しい。
- ・次年度も引き続きCBTを利活用し、より多くの検定受験の機会を学生へ提供できるようにして欲しい。

⑤ 学生支援

- ・高等教育の修学支援新制度の利用率が把握できた。適宜学生へ周知し経済的な理由で勉学に支障が生じないように学校全体で連携して欲しい。
- ・制度運用に関し適切な事務手続きに努めて欲しい。
- ・コロナ感染対策支援としてこれかも様々な制度が創設されると予想されるので、情報収集に努めて欲しい。(特に留学生への支援制度は公私両面でチェックして欲しい。)

⑥ 教育環境

- ・コロナ禍によりインターンシップに影響が生じている点を把握できた。安全を優先する中で工夫して機会を創出して欲しい。
- ・震災から10年を迎える。改めて施設の点検を強化して欲しい。
- ・次年度に向けた改修計画が確認できた。

⑦ 学生の受入れ募集

- ・WEB型、リモート型の進学相談体制を推進して欲しい。
- ・来校型オープンキャンパスの運営には、感染症対策に十分留意して欲しい。(移動や飲食提供など)

⑧ 財務

- ・予算の計画、実績把握が適正におこなわれている。
- ・財務状況の情報が公開されており評価できる。
- ・中間検証の場を設けたらどうか学内で議論したらどうか。

⑨ 法令等の遵守

- ・在校生情報の管理システムが適正に運用できている。
引き続き業務マニュアルの改善やデジタル化対応の推進に努めて欲しい。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・SDGs(持続可能な開発目標)17の目標の中に「教育」や「ジェンダー平等の実現」目標が設定されている。行動を計画し実行することで社会貢献を果たして欲しい。
- ・プログラミング教室の反響が理解できた。リモート型開催など工夫し継続を検討して欲しい。

～学校関係者評価の総括～

学校の自己評価を基に令和 2 年度の学校活動に関して検証した。教育目標や将来構想に関する成果や今後の課題設定がなされており概ね適正であると評価する。

令和 2 年度はコロナウイルス感染症対策をあらゆる場面で講じなければならぬ 1 年であった。ピンチをチャンスに変え新しい試みに挑戦している学校の姿勢が感じられ次年度以降も期待したいところである。引き続き対策し、よい教育を在校生や地域社会に提供できるよう本評価委員会も併走し、積極的なアドバイスに努めたい。